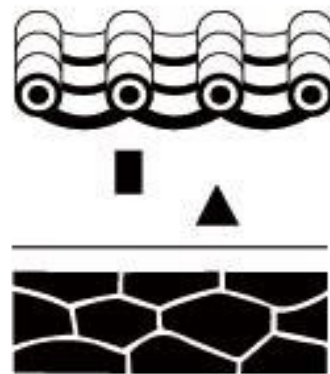


OGO 第78号

# 小田原ガイド協会だより

平成30年12月1日発行（冬号・季刊）

NPO 法人 小田原ガイド協会 〒250-0014 小田原市城内 3-22  
TEL 0465-22-8800 FAX 0465-22-8814  
ホームページ URL <http://www.odawara-gaido.com>



## ガイド協会HPについて

### ホームページ委員会

#### 関森 規安

小田原ガイド協会では、情報発信源として、ホームページを七年前に立上げた。画面の刷新を行いながら現在運用中で、今年度は月平均約五千ビューの訪問者となっている。ゼロから立上げて頂いた先輩諸氏に感謝するばかりである。

ホームページでは、情報発信が一方的になるため、訪問して頂いたお客様に如何に新しい情報を発信できるかが大切であると認識している。更新は基本的に毎週一回は必ずおこなう事としている。まず、当協会の目玉である「企画ガイド」の情報、モデルコース詳細、小田原城や石垣山一夜城に関するイベントやレンタサイクル等の情報を発信している。HP更新に携わるメンバーは現在五名。



### (ガイド協会HPトップ)

週一回の更新には人員的にもちようどよい。この更新の内容は、月次に開催しているHP委員会の会議にて、イベント類の確認、新規の情報や更新すべき情報などを打合せて決めている。写真も会員の撮影したものを掲載している。また、「予約ガイド」の予約

申込書をダウンロードできるようにしており、予約ガイドのほぼ全てをこの申込書によって詳細を打合せ決定し、必要なガイド員を手配している。その他の情報として、協会報である「OGO会報」のWEB版を掲載し、紙版と違って掲載写真はカラーで提供しており、見やすいと好評である。しかし、時として思ったような仕上がりにならない場合もある。一番の悩みは、やはり更新に掛かる時間が限られるということだ。少しの更新作業でも二〜三時間はすぐに経過してしまう。思った通りの表現ができなかったということもしばしばである。モデルコースの内容見直しや新規コースの追加など、こうしていきたいという事も沢山控えているが、委員の技量も限りがあり、あまり高望みせずできる範囲で、見やすくわかりやすい画面作りを心掛けていく。

## ◆府内の金次郎◆

### 企画ガイド

「小田原府内の二宮金次郎

ゆかりの地を巡る」

鈴木 かづる

今回の企画は前日開催された報徳サミットの関係者も参加するもので、十月十四日曇天の中五十七名の参加者と順次出発。府内の金次郎は、小田原藩に仕えた青年時代で新たな出会いを求めてゆかりの地を巡った。

江戸時代の道がそのまま残っている鍋弦小路を通り家老吉野家跡へ。ここで金次郎は五常講と八朱金制度を提案した。五常講は世界最初の信用共済で現在のさがみ信用金庫に至る事をご案内すると「金次郎は凄い」驚きの声が上がリ暫し盛り上がった。

次に、家老服部家では二度奉公をしている。儒学の弧嶺館へ通う若様のお世話、年貢用斗枘の改正。忠真公から善行表彰等。ここでもまた「金次郎も凄いが忠真公も立派だ」との会話が飛び交った。

報徳二宮神社は鳥居が新設された表参道から入り、金次郎像等ご案内。

報徳仕法で有名な商家で現存の江嶋等ご案内し米蔵跡へ到着。

後半は合間を見てインカムを通し、歩きながら「報徳記」で報徳仕法が全国に広められた話等をした。街中でのインカムは好評だった。

時を超え静かに語り継がれる金次郎の生涯について「大人になつての金次郎の生き方に「感動した」「幼少の金次郎しか知らなかったので参加してよかった」とそれなりに金次郎を理解していただき新しい発見があったようだ。参加者同士和気藹々で楽しくガイドをさせて頂いた。現存のものがなくても喜んでいただけただけの企画だと思えました。

## ◆箱根八里を歩く◆

### 企画ガイド (一回目)

「小田原宿から箱根湯本」

濱村 哲夫

最近の新聞に、旧東海道を歩くことがブームになっていくという記事が載っていた。

今年、箱根八里が日本遺産になったこともあり、小田原宿から箱根関所までの旧東海道を三回に分けガイドする企画。今回はその第一回目。しかし、台風二十四号が接近し、荒れ模様との天気予報が出た。その結果、多くのキャンセルが出て総勢三十名でのスタートとなった。

東京都や神奈川県内では国道一号线が旧街道と重複して敷設されたため、旧街道自体が国道となったり、また分断されたりしている。さらに小田原宿は、地震などの災害により古い町並みはほとんど残っていない。そんな街並みをガイドするのは、結構大変で工夫が必要である。

小田原宿は宿場であり、かつ城下町であるが、他の同様な形態の宿場に比べ宿内のコースは意外と単純である。例えば同じような岡崎宿は、岡

崎二十七曲がりと呼ばれる複雑な道順で、少しの距離を歩くのに、かなり遠回りをさせられる。

また、箱根口のように街道から城門が直接見えることも珍しいらしい。そのせいか、一六五〇年代半ば何のお咎もなく三の丸の奥深くまで入りこんでしまい、後で大問題になったという話も残っている。関ヶ原の戦いから半世紀、平和な時代に城門の警備も緩んだかもしれない。もはや戦後ではない。どこかで聞いたセリフかな。そんなエピソードも交えながら、昼食場所である松永記念館に到着した。その頃から雨が一段と激しくなってきた。湯本まで行きつけるか心配しつつ、参加者にこれからは箱根登山鉄道線沿いを歩くので、途中の駅で離脱しても構わないと伝え出發した。幸い、湯本駅まで全員が離脱することなく到着した。皆さん雨の中ご苦労様でした。

## ◆箱根八里を歩く◆

企画ガイド(二回目)

「箱根湯本から畑宿」

早野 耕平

第一回目の小田原宿から箱根湯本の三枚橋迄に続き、十一月九日(金)箱根湯本駅に集合して畑宿までの企画を実施した。快晴に恵まれ約七十名のお客様を五班に分け、インカムを使用して交通量の多い狭い江戸時代の旧東海道を一列になりながらのガイドである。今回は、須雲川の部分に絞ってお話をしましょう。杉並木を過ぎ、明るい日差しの下にでると、須雲川はもう少しである。須雲川の対岸の山々が日に映えて美しい。紅葉の見頃にはやや早い、箱根山中の静かなる山村の原風景を見る心地がする。須雲川村の御好意で、集会所にて昼食。三〇分で手早く済ませ、隣の広場でぬくぬくと日の光の中、勝五郎・初花の話を語った。北條の家臣の家を舞台に天正十八年に仇討が成就す

る実話を、司馬芝叟作の浄瑠璃「箱根靈験甕勝五郎」から発展し、江戸歌舞伎で大当たりを取り、後世「はつ花」と云う自然薯入りの蕎麦屋までできた塩梅。

初花が百日行を行った滝の姿こそ見えないが、山腹の辺りがモゾモゾする気配を感じる。須雲川村の成立ちや、鎖雲庵についての話は、大いに興味を示された。大澤川を渡るのに新道のバス道を歩く。この坂は疲労が蓄積している最後の畑宿への道で、登り切ると畑宿の村が見え、茶屋本陣の茗荷屋の話でやれやれである。目的の一里塚はすぐそこ。皆さんの顔は達成感と安堵とで晴れやかであった。



鎖雲寺 初花・勝五郎の墓



企画ガイド

「快晴の白秋」

聖地巡礼

栗原 美紀

たぶんこの秋最高の快晴です。四十名のお客様も「当たたね」と笑顔。北原白秋が小田原にやって来て、ちょうど百年となる今年、白秋の暮らした家、散歩道、作品に触れながら真に聖地とも言える場所を巡る企画です。箱根板橋を出発、掃雲台跡地を経て新幹線脇を上り、ここで白秋の最初の結婚について語ります。でもナイスタイミングにお客様が蜜柑をむいてくださり道ならぬ恋も爽やかムードになりました。

そして白秋が八年を過した伝肇寺へ。ここはマニアにとっては垂涎の地。本堂の佇まいは殆ど変わっておらずあの「かやの木山の」かやの木も樹齢二百年を越えて健在です。語りたいた事がいっぱいあるのを次のお楽しみにと引っ張って進みます。次は、通称天

空のテラスへ。すばらしい眺め。小田原の海、山、言葉はまらないという感じでした。ここで第二幕、二番目夫人章子さんについて語ります。あのド派手な園遊会や離婚劇は先輩に頂いた資料のお陰で何とか整理して話せたと思います。そして白秋の散歩道「からたちの小径」へ。童謡作品に触れながら第三夫人の菊子さんとの暮らしについて。白秋が安定した家庭を持ち小田原の自然と共生しながら穏やかな作風へと変わって行った様子を聞いて貰いました。終点の小田原文学館に着くと先輩の声「白秋にハクシユ」どっと拍手が起こり、お土産には白秋の愛したカステラと月のうさぎ(兎好きをもじって)&コーヒー。お客様笑顔と爽やかな快晴に応援された一日でした。



## 「小田原の町あるき &ものづくり体験」

賛助会員委員会

大竹 虎雄

賛助会員委員会では、会員老舗店の紹介と東海道筋、甲州道沿いの脇道と町内施設等を案内し、更に参加者が希望している「ものづくり体験」を行う事を決定し、十月二十日企画を実施しました。おしゃれ横丁や錦通り、須藤町は、箱根火山の噴火でできた尾根筋にあたります。大正九年に小田原駅が開設され商店街となり、町も開かれ大きな変化に関心を示していました。



須藤町では、町名碑や江嶋店内にある江戸時代末期の台帳や鹿皮製の法被など紹介。更に建物の二段重ねの出桁造を見学し、風格を備えた信頼あるお店と感じたようです。

台宿町と一丁田町は国際通りとして呼ばれ、以前は外国製の古着屋が多く庶民的な商店街でした。また、新宿方向に入ると涙橋や牢屋敷の跡があり、時代の変化により歴史と文化の香る町並みは変わっていました。

徳川家康の頃、江戸の町作りのため、青物町の人びとが東京日本橋に移り住んだ事や東海道小田原宿、かまぼこ通りの説明を行い、江戸時代の城下町小田原のすばらしさを感じてもらいました。

なりわい交流館では、ものづくり体験として「フォトフレーム」を露木木工所の指導のもとで作りました。旅行などで撮った写真を入れたり、リビングや寝室におきたいと感謝の言葉がありました。今後今回のような町あるきを実施したいと思います。

リレーエッセー わたしの城旅②

## 脇坂水軍 洲本城

戸田 博史

数年前、家族旅行で淡路島に行った時、泊ったホテルのフロント嬢が言った。

「この島にもお城があります。城主は脇坂安治って……あまり有名じゃないけど……」

「脇坂水軍の脇坂ですね」「あつ？知ってましたか」フロント嬢はうれしそうに顔を輝かした。

もちろん知っている。小田原城「合戦図」に、海上封鎖に参加した脇坂安治の名前がある。協会員ならおなじみの名前だ。

レンタカーで、山の頂の城跡まで行った。空は快晴、海は青い。途中から見事な石垣が続き、山頂には小さな模擬天守があった。

水軍の城は好きだ。当然だけど海を望むところに築城される。そこから見える風景は絶景だ。洲本城の場合も大阪湾を望み、すぐむこうに紀伊半島がダイナミックに見える。ここなら、秀吉の大坂に出入りする船をすべて監視できる。

城跡の一角に古ぼけた案内板があり脇坂安治について「秀吉の重臣。小田原の役で活躍した……」と書かれてあった。

私は何となくうれしくなって、同行した息子に向かって説明した。「ほら書いてあるだろ。秀吉が二十万の兵隊を率いて小田原城を取り囲んだんだ。その時、脇坂安治は……」

そばの観光客の何人かが私の熱弁に足をとめ人の輪ができた。私はいつの間にか、洲本城臨時ガイドになっていた。



やさしいジオパークの話

第二回

## 山の誕生「 火山の話」

真木 和男

### 様々な形の山々

私たちの周りに天高くそびえる、また静かに横たわる山々の姿から山の誕生を考えてみましょう。様々な形をした箱根の山、低くなだらかな山の大磯丘陵と足柄山地、雄大にそびえる丹沢山地があります。今回は、箱根のような火山でできた山について紹介します。

### 火山の仕組み

前回、海のプレートが陸のプレートの下へ潜り込むわけを説明しました。地下の約百二十kmまで潜り込むと、陸のマントルは海のプレートの水分の働きで溶けマグマに変化します。

海のプレートの水分が陸のマントルに作用して、融点を下げることからです。個体のマントルから変化した液体のマグマは、軽くなり上昇して地下約十kmのところからマグマだまりを作ります。火山は、軽くなったマグマが噴火口から噴出する事です。噴出したマグマが溶岩であり、冷えて固まり岩石になります。噴火口から噴出せずに、マグマだまり付近でゆっくり冷えて固まる岩石もあります。前者を火山岩、後者を深成岩と言います。あわせて火成岩です。

### 噴火の種類

マグマを噴出するのが噴火です。水分を多く含むマグマは、噴火の前後に水蒸気爆発を起こし火山灰や火砕流などの火砕物に変化して噴出します。これを特に爆発的噴火と言います。前回の写真は、マグマが噴火前で地下を上昇中に冷えて固まった様子です。その後、地下は隆起し、須雲川によって浸食され、山の内部が露出している様子です。

### 箱根の山の形

岩石は鉱物からできています。鉱物は元素からできています。岩石に最も多く含まれている鉱物は、ケイ素と酸素の元素からできています。二酸化ケイ素です。二酸化ケイ素を少なく含む岩石は、粘り気が薄く遠くまで流れて、外輪山のようになだらかな山容の山を形作ります。二酸化ケイ素を多く含む溶岩は、粘り気が濃く噴火口の周りで固まり、双子山のようなドーム状の山を形作ります。箱根の岩石の種類は、ほとんどが二酸化ケイ素の含有率六十%前後のため、火山岩の中の安山岩です。箱根の山は、まず火山であること、次に形が異なっているように、それぞれ時代も異なり、複数の山の集まりです。

箱根の山は四十万年前から三千年前まで大きな活動をしてくれています。最初になだらかな山が多数にできた外輪山です。二番目に中央部で爆発的噴火が起きカルデラが生まれました。三番目にカルデラの中

で浅間山などのなだらかな山ができます。四番目にカルデラ中央部に二子山のようなドーム状の山が生まれました。五番目に神山が山体崩壊して早川の流れをせき止め、芦ノ湖が誕生して現在に至っています。

次回は、隆起によってできる山を紹介します。なお、わかりやすい説明に重点を置きますので、正確さに欠ける点が多々あることをご了承ください。



荻窪丘陵からの丹沢の眺め

| No. | 企画ガイド                       | 日時・集合場所   | 参加費           | コース  |
|-----|-----------------------------|---|---------------|--|
| 1   | 小田原のまちあるき<br>ここがおすすめ!       | 12月8日(土) 約5km<br>9:30~14:30頃<br>小田原駅東口<br>二宮金次郎像前 | 2000円<br>昼食代含 | 小田原駅~柏木美術鑄物研究所<br>~田中屋~丸う田代~山一湯川<br>商店~鳥かつ楼<昼食>~杉兼<br>~ちん里う~箱根屋酒店<地酒<br>の試飲>~ういろう~馬出門  |
| 2   | 平成最後の...<br>小田原七福神<br>めぐり   | 1月5日(土) 約7km<br>9:00~15:00頃<br>小田急線足柄駅            | 1000円         | 足柄駅~潮音寺(毘沙門天)~福<br>泉寺(満願弁財天)~鳳巢院(寿<br>老人)~蓮船寺(大黒尊天)~報<br>身寺(恵比寿)~大蓮寺(福祿寿)<br>~圓福寺(布袋尊) |
| 3   | 小田原の<br>「禄寿応穩」<br>幸せ探し!     | 1月26日(土) 約5km<br>9:00~14:30頃<br>小田原駅西口三省堂前        | 700円          | 三省堂前~満願弁財天~大稲<br>荷・錦織神社~松原神社~なり<br>わい交流館~御幸の浜~ういろ<br>う~二宮神社~弁財天~<br>UMECO交流センター        |
| 4   | “職人の街”<br>早川・板橋めぐり<br>と歴史散策 | 2月2日(土) 約4km<br>9:30~12:30頃<br>JR早川駅              | 1500円         | 早川駅~露木木工所~カネタ前<br>田商店~大川木工所~下田豆腐<br>店~早川二重戸張~早川漁港                                      |
| 5   | 「秀吉軍陣場から<br>北条大外郭を<br>眺める」  | 2月16日(土) 約7km<br>9:00~15:00頃<br>箱根登山鉄道箱根板橋駅       | 1000円         | 箱根板橋駅~細川忠興陣場~丸<br>塚陣場遠望~佐野天守~宇喜多<br>陣場~羽柴秀次陣場~黒田陣場<br>~蒲生陣場~市役所                        |

各コース参加申込は、実施日の45日前からです。申込み 電話番号：0465-22-8800  
小田原ガイド協会HPでもご案内しています。

### 木菟のささやき

「歴史上の巨大地震」三題◆小田原地方で寛永・元禄・天明・嘉永年間に、そして大正の関東大震災まで、ほぼ70年ごとに大地震が発生している。その中で最大のものは元禄地震といわれる◆秀吉の時代、天正大地震が天正13年11月(1586・1月)に近畿地方を中心に発生、全国統一の標的である家康は命拾いをする。その10年後、文禄5年に慶長伏見地震が京都・伏見付近で発生し、伏見城と方広寺の京都大仏は倒壊した。この二つの巨大地震は大いに家康を利する結果となった◆あまり知られていないのが太平洋戦争終結前後の4年間、連続して発生した巨大地震。1943年鳥取、1944年東南海(三重県沖・津波)、1945年三河(愛知県)、1946年南海(紀伊半島~四国沖・津波)と、全ての地震で千人以上の死者が発生しているといわれる。戦時中の地震はほとんど報道されることは無く、戦火と戦後の混乱に埋もれ十分に伝えられていない。(N)

◇平成三十年九月以降の退会者◇

清水 金蔵様、長田 康子様

ありがとうございます。

### 編集後記

長かった残暑が終わり、台風の影響で巷の紅(黄)葉は残念な枯葉となっており、でも秋の観光シーズン今年もたくさんの観光バスが藤棚駐車場へ入って下さいました。協会の皆さまお疲れ様です。そしてこれから寒さ厳しい冬を乗り越えるため体調にはご自愛を(磯)

編集委員長 磯崎知可子

委員 戸田博史・中村哲夫

鈴木康子・宮澤周子